

民間シェルターの見学を通じて 私を感じたこと、取組の提案

2019年4月17日 第3回シェルター検討会
生 稲 晃 子

「ボンドのイエ」の見学状況① (3月19日訪問)



入居理由(家に帰れない理由)

- ・同棲していた交際相手からの暴力
- ・実家は助けてくれず

- ・兄からの暴力
- ・親は見て見ぬふり

- ・進路をめぐり親と対立
- ・家にいられなくなりネットカフェで生活

「ボンドのイエ」の見学状況② (3月19日訪問)

入居者の共通点

最も身近で頼るべき存在(=家族)との関係
で問題を抱える

「ボンドのイエ」につながっていなければ、危
険で不安定な生活を続けざるを得なかった

自分の「居場所(=支援者、ボンドのイエ)」
を見つけたことで前向きになれた

居場所がない

電車のホームから飛び込み
そうになった方も・・・

社会とのつながり



「ボンドのイエ」の見学状況③ (3月19日訪問)

- ・閑静な住宅街
- ・外観は普通の戸建て
- ・個人の居住スペースは2室

「化粧をするのが好き」というAさんの部屋の本棚には医療関係の参考書が並んでいた。

←こちらは「おニャン子クラブ」の大ファンというBさんの部屋。前日に掃除をがんばったそうです！

今後の課題

① SNSやメールを活用した相談対応の充実

② 被害者のニーズに応じた心理面での支援

③ 加害者更生の仕組みづくり

今後の課題①

SNSやメールを活用した相談対応の充実

専門的知識を持つ支援団体に、とにかく「つながる」ことの重要性

相談のハードルを下げる(24時間対応、友達感覚で相談できるetc...)

相談の手段を増やす必要性(電話相談、SNS相談、メール相談etc...)

SNS相談をしている相談機関はまだ一部

今後の課題②

被害者のニーズに応じた心理面での支援

多角的、複層的な視点からの支援の必要性

専門家による心理的ケアが必要なケースも・・・

行政による財政的なバックアップを

支援の次のステップ
として

今後の課題③

加害者更生の仕組みづくり

「相手が変わらないなら自分が変わるしかない」! ?

被害者がこれまでの生活空間で**安心して過ごす権利**

加害者更生プログラムの国による積極的な実施を

逃げ続ける現状に
終止符

ご静聴ありがとうございました。